

普通期水稻（元気つくし・ヒノヒカリ）管理情報 NO.2



1. 生育概況

JA 粕屋 HP

- 7月上中旬の気象は、平年と比較して平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。
- 7月22～23日の現地生育調査の結果、目立った病害虫の発生はなく、茎数は順調に確保されました。
- 7月22日付けで県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の注意報が出されています。粕屋地域のほ場においても、イネカメムシの発生を確認していますので、今後の発生状況には十分留意し、適期防除を徹底しましょう。

2. 穂肥

下表を参考に「基肥に使用した肥料」に応じて穂肥を判断してください。

基肥に使用した肥料	穂 肥	
基肥一発肥料 (Jコート2000 晩稲、有機特栽米エムコート077号など)	穂肥の必要はありません。 ただし、葉色が極端に薄い場合は、高温障害が生じやすくなるため、その際はJA 粕屋各プラザにご相談ください。	
速効性肥料 (くみあい化成ベスト444、有機特栽米基肥017号など)	品種	肥料 及び 施用量 (品種ごとに①～③のいずれかの肥料を選択して散布)
	元気つくし	1回目 10kg/10a 2回目 10kg/10a ※2回目は1回目の7日後頃に施用
		①NK化成2号
		②IAコート206ワツヨット 15kg/10a
		③有機特栽米追肥047号 30kg/10a
	ヒノヒカリ	①NK化成2号 15kg/10a
		②IAコート206ワツヨット 13kg/10a
		③有機特栽米追肥047号 23kg/10a

穂肥は下表の生育タイミングを参考に施用してください。

品 種	葉色	幼穂長 (mm)	出穂前 日数	田植え時期別の施用時期の目安				
				田植時期	穂肥時期の目安	(参考) 平年出穂期		
元気つくし	3.5 ～ 4.0	2～5	18～20 日	6月 7日	7月23～25日頃	8月12日頃		
				6月14日	7月29～31日頃	8月18日頃		
				6月21日	8月1～3日頃	8月21日頃		
ヒノヒカリ	3.0 ～ 3.5			6月 7日	8月3～5日頃	8月23日頃		
				6月14日	8月5～7日頃	8月25日頃		
				6月21日	8月7～9日頃	8月27日頃		


※なたね油粕を使用する場合は、施用時期を上記目安より7～10日早め、施用量は元気つくし50kg/10a、ヒノヒカリ45kg/10aとします。

※ほ場の地力、水稻の葉色に応じて穂肥の施用時期・施用量は調整して下さい。

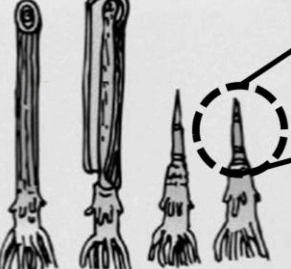
※葉色が濃いほ場(4.0以上)は、施用量を減らすか施用を止めましょう。

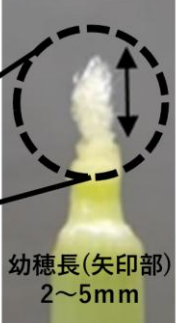
＜幼穂長の確認方法＞

＜その1 カッターなどで割る＞



＜その2 葉鞘をむく＞





幼穂長(矢印部)
2～5mm

調査時 幼穂長	穂肥時期 の目安
0.5mm	6～7日後
1.5mm	4～5日後
2.0mm	1～2日後
3.0mm	0～1日後

3. 水管理

下表を参考に水稻の生育にあわせて水管理を実施してください。

タイミング	水管理	ポイント
中干し後～出穂 1 週間前	間断かん水	湛水→自然落水→湛水の繰返しを行いましょう。
出穂前後 1 週間	湛水	生育期間で一番水が必要な時期のため、水を切らさないようにしましょう。
出穂 1 週間後以降	間断かん水	この時期の根の活性が登熟に大きく影響するため、水を溜めっぱなしにしないようにしましょう。

高温障害（高温不稔、白未熟粒の発生）対策として出穂 1 週間前からの水管理が特に重要です。
この時期以降に落水状態が続くと稲が高温状態になりやすく、高温障害を助長するのでほ場の状態を十分に確認してください。

4. 病害虫防除

下記によりいずれかの体系で必ず防除してください。また、薬剤防除のほか、斑点米カメムシ対策として、出穂 14 日前の畦畔除草を徹底しましょう。

【基幹防除】

対象病害虫	防除適期	体系・農薬名		使用量(10a あたり)	使用時期
いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉	ダブルカットバリア トリボソ粉剤 3DL	3～4kg	穂揃期まで
		液	(3 剤混用) ダブルカット70アブル モンセイ70アブル イクシード 70アブル	〔希釈水量 140ℓ〕 140mℓ (1,000 倍) 93mℓ (1,500 倍) 70mℓ (2,000 倍)	穂揃期まで 収穫 21 日前まで 収穫 7 日前まで
		粒	(どちらかを散布) ゴウケツインスター粒剤	3kg	出穂 5 日前まで (但し、収穫 45 日前まで)
			ワイドパソ豆つぶ	250g	収穫 35 日前まで

※ゴウケツインスター粒剤の使用時期には、十分注意して使用するようにしましょう。

※粒剤は上記の防除適期よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

用語の説明

「出穂期」：全莖数の 40～50%が出穂（止め葉の付け根から穂先が出現）した日

「穂揃期」：全莖数の 80～90%が出穂（止め葉が付け根から穂先が出現）した日

【補正防除】

基幹防除のみでは病害虫の発生が抑制できない場合は、栽培こよみ掲載の補正防除を検討しましょう。

特に近年、増加しているイネカメムシは水稻品種にかかわらず収量・品質に大きく影響を及ぼしているため、ほ場を十分確認し、発生が認められた場合は防除を実施しましょう。

《イネカメムシについて》

特徴	・成虫の体長は 12～13mm、幅 5～6mm で体色は茶褐色
生態	・雑木林等の越冬地から出穂前後の水稻に飛来し、水稻穂を吸汁 ・出穂の早い品種から順に遅い品種へ移動し、被害を及ぼす
被害	・出穂期に被害にあった場合、不稔粒が発生し収量が低下 ・乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生し品質が低下
対策	・「 <u>出穂期</u> 」と「 <u>出穂期の 14 日後</u> 」の 2 回防除が基本 ※粒剤は効果発現に時間を要するため上記の 1 週間前に施用 ・防除薬剤は「エクシード剤」か「スタークル剤」を使用

要注意！



イネカメムシ

※殺虫剤（粉剤・液剤）を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けてください。

農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ④防除履歴を記帳しましょう
- ⑤散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょう